えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報　第131号	２０１２年6月２３日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠

１．活動報告（　事務局　記）

―５月１９日（土）野鳥観察会時一部会員にて田んぼへ厩肥運搬と午後急遽厩肥散布

―５月２０日（日）原田宗会員によって田んぼの耕運が行われました

―６月３日（日）二俣瀬地域は田植えの準備等真っ盛りで会員の参加も望めませんでしたが１５名の参加と市環境政策課の山本美緒様の応援をえましてエコアップを主体に活動しました。

①草原川の「タテバチドメクサ」駆除
②湿地帯のスゲ間引き
③蓮田は蓮のみ残しアサザ撤去　コウホネ撤去　夜這い草駆除をいたしました。

休憩時間帯には生物生態系の維持について当会が行った協議会の意見の説明回答を関根会員より行っていただきました。

田植え準備

―６月１０日（日）田んぼに水入れ開始。レベル調整
―６月１２日（火）吉冨匡会員によって田んぼの代掻き・今井会長が整地をされました。
―６月１３日（水）田植え準備（田んぼ周囲の草刈と駐車場の草刈）を行いました。
―６月１５日（金）田植え準備（綱張り・東屋準備・駐車場の草処分）

―６月１６日（土）天候が悪くて、途中には少し雨も本格的に降りましたが、皆様雨具を着用され、順調に田植えを終えました。田植えの後で、おむすびと漬物をおいしく頂きました。今日の参加者は、観察隊の隊員１２名と親７名、二俣瀬子供会の子６名と親５名、会員２８名、山大の学生５名の６３名でした。

２．今後の予定（　事務局　記）

◎ 見学者　フジとキララ子どもエコクラブより８月の親子自然観察会と同じ日に活動を申し込まれています。

◎行事
―７月０８日（第２日）維持活動（エコアップ、草刈り）
―７月２１日（土）維持活動（エコアップ、草刈り）

３．来訪者の声

今月はありません

４．会員の声

「うえみて」　　（　原田満洲夫　記）

先月号「会報１３０」に内藤会員が書かれていた田植えは、共同作業であり、同時に神事で有ったと書かれていた。春祭の神事は稲作が順調に出来、村人に一番大切な食料がつつがなく供給出来る様お祈りをするものである。稲作には絶対必要な水（雨）であり、雷でもあった。

雷は土壌を刺激し稲に養分をあたえ、雷の多く鳴った年は豊作であったと神代の昔から云われてきた。したがって神事には稲妻を形取った御幣と雨を形取った７・５・３の稲わらを注連縄に挟んで雨と雷が恵まれ豊作になるよう祈願しているとある。

ビオトープも７月１６日無事田植えが済んだ。**「植えみて」**である。「・・・みて」は満ちる･充ちるからきていてそれ以上は無い。言い換えれば終わりの意味から来た方言で有ろう。

例えば「刈みて」は稲を全部刈り終わった事を云うし「こぎみて」は脱穀が終わった事「摺りみて」は臼挽きが終わった事を云ってその都度きつい労働から骨休みをするためと近隣同士で農作業を助け合って出来たお礼として、酒を呑み交わしお祭事をしながら農業を続けてきた。

学校でも、田植え時期と稲刈り時期には現在もある春休み、夏休み、冬休みとは別に農繁期休暇として休む（家の手伝いで働く）ことが出来た。

現在の稲作は田んぼを耕すも、代を掻くも、田植え、稲刈り、乾燥脱穀、籾磨りもすべて機械でまた近隣の力を借らずに全てが可能となり「・・・みて」は無くなった。それによって協働作業もすなわち百姓仲間のコミニケーションもなくなってきた。はてさてどちらが未来永劫として大切であるか考えさせられる。

たくさんの親子・子どもが稲作体験の一部「田植え」を体験してくれたがほんの稲作の一部分で有ることを知ってもらいたい。

“植えみてて　これで餅が食えると　子ども言う”　　字余り

５．親子自然観察隊　６月１６日（土）　「田植えの体験」

（隊員 12 名、保護者７名、会員 28 名、二俣瀬子供会の子６名・親５名、山大学生５名）

あいにくの雨にもかかわらず、63 名の出席者を数え田植え行事を無事終了いたしました。原田（満）事務局長が、急な病で欠席されましたが、それまでの準備は万端、今井会長、原田（賢）副会長が中心となり、１時間ほどで田植えを終えることができました。

大人も子供も裸足になって、泥んこになりながらの作業でしたが、途中の大雨にもかかわらず、元気に上手に植え付けがなされたようです。昨年の経験によるものか、大変手際よく、思ったより早く田植えが終わりました。

田植えの後は、無事に田植えを行った後のねぎらいとして、全員に「おにぎり」がふるまわれました。一人当たり２個以上のおにぎりがあり、手作りのお漬物も大好評で、雨に濡れながらでしたが、楽しい昼食タイムとなりました。

現地での炊き出しを計画したのですが、参加人数も多く雨などの対応ができないので、やむなく公民館を借りての炊き出しとなりました。おかげ様で、雨に打たれながらの大変な田植えでしたが、温かくおいしいおにぎりのおかげで、大変楽しい田植えとなりました。炊き出しにあたられた会員の皆さん、ありがとうございました、ご苦労さまでした！

管　哲郎　記

５月の野鳥観察での感想

★山本将大君のお父さんの感想

鳥の観察の感想ですが、今年は昭和山に登れなかったのは残念ですが、その割には、かなりの野鳥の声や姿が見れて良かったです。いつも子供たちのために草の刈り取り等していただき、感謝しております。

★佐藤佑斗くんの親御さんの感想

野鳥を観察させていただいたことで、鳥に興味のなかった息子が図鑑を買い、鳥のことに少し興味を持つ気持ちになったようでした。特に、カラスがヘビをつついている様子を見ることが出来たことを、とても喜んでいました。

★金子さんの兄妹

普段、あまり気にしない鳥の声が聞けたのでうれしかったです。あと、鳥の姿も観れてうれしかったです。（金子揮壱）

鳥が大きく見られてうれしかったです。（金子実侑）

６．ビオトープ関連（ビオトープのトンボたち）（　管　哲郎　記）

（４９）チョウトンボ（トンボ科・チョウトンボ属）　*Rhyothemis fuliginosa* SELYS

本州、四国、九州に分布しますが、関東地方以北では少なく、東北地方では産地は限られています。日本では２種が、別種では台湾や中国、インドやアフリカ、オーストラリアなどにもそれぞれ１９種が生息します。池の上をヒラヒラとチョウのように飛ぶことからこの名がつけられたようです。

６月頃より９月頃までみられ、植生豊かな池や沼、汽水湖などに棲息します。植生豊かな古い池が改修されると水生植物がなくなり生息数が激減したり絶滅したりするため、生息域が減少しているようです。安定した大きな池では何十頭もの成虫が池の上空を乱舞し壮観です。

交尾時間は短く数秒～１０秒くらいなので、交尾の瞬間を撮影するのは大変です。カメラを構え、じっと観察し続けることが必要です。ビオトープにもたくさんみられますので観察してください。

チョウトンボ　♂

チョウトンボ　♀

チョウトンボの連結交尾（上：オス、下：メス）

チョウトンボの連結飛翔（左）と
オスの飛翔

７．会よりの連絡事項　（　事務局より　）

１）７月の活動は２回とも維持活動です。親子自然観察隊は８月４日まで有りません。

２）　会員消息

林　武司（６６歳）　５月２８日にご逝去

ビオトープ創設以来１１年間頑張られましたが病気には勝てませんでした。

８．編集後記

ビオトープでは、先月の末から蛍が飛び始めました。今年は自分の目で蛍の様子を確認したいと考え、５月２５日頃から雨の日を除いて、夜の八時過ぎにビオトープに通っています。

ビオトープでは、種類が異なった２種類の蛍がいるようです。出現時期は、それぞれ異なっています。最初のピークは、今月の初め頃でした。川沿いに飛んでいた蛍が日ごとに数を増し、６～７日に草原下流のイゼキ周辺では５０～６０匹舞っていました。次のピークは、今月の２０日頃です。蓮田周辺で、２０匹前後の蛍が舞っています。この蛍たちは、明るさが弱く飛ぶ範囲も狭いようです。しかし、明かりが蓮田の水面に反射してきらきらと光ります。最初の蛍が優雅な光とすれば、繊細な光と言うべきでしょうか。

ビオトープの蛍は、蛍の名所（木屋川や一の坂川）に比べると、大したものでないかも知れません。多くの見物人を呼び寄せるほどでもありません。しかし、半世紀前の日本では、このような光景が至る所で見られたのではないかと思います。いわゆる、日本の原風景です。この様な目立たない風景を少しでも維持していくことが、私たちの活動の意義ではないかと思います。来年も、同じような光景が見られるといいですね。

（　前田　歳朗　記　）